

(Ⅲ) 生活援助事業部

1. 居住支援課（ホームいろえんぴつ）

ホーム いろえんぴつ
ホーム長 藤波 淳子

(1) 各サービス事業報告

①共同生活援助事業（グループホーム）

平成 23 年に開設した「ホーム いろえんぴつ」では、当初から入居している 7 名の利用者が、日中サービスに通所しながら安定した生活をおくっている。

・個別支援計画の充実

運営理念の『一人ひとりの(あした)に向かって自立した私らしい生活づくり』を実現するために個別支援計画作成においては、日中支援機関との連携に力を入れ利用者のニーズを聞き取り、丁寧にアセスメント(聞き取り・面談)を行った。利用者を中心にして家族と話し合い具体的なプランを形づくり、本人に分かり易いように個別支援計画書「わたしのみらいけいかく」として支援した。

開設 6 年が経過し、利用者の身体的変化や保護者の状況にも変化がみられてきた。特に障害者の高齢化による対応も視野に入れていかなければならない状況がある。移動支援を受けて外出する際にも体力の低下に配慮しながら充実感が得られるような支援をヘルパーに依頼している。

・利用者自治会の発展

利用者のおだやかな共同生活を守る要は「利用者自治会」である。共同生活の規則や意見、行事の内容、さらには困りごとの解決の場として毎月開催される大事な集まりである。出席率がよく、利用者の自覚の高さが伺える。ホームの生活を自分たちで作り上げる気概を持ってもらうために司会や書記も立候補で決めている。活動がより活発になってきている要因となっている。

・防災・防犯の取り組み

これまで災害対策に力を入れてきたが、今年度は、新たに防犯対策も行った。相模原の心痛な事件が報道される中、改めて職員会議等で事件について全員で考える機会を作った。

そのうえで成城消防署の防犯担当者を招いて防犯訓練を行った。そして新たな対策を見つけることができ夜間防犯センサーライトや防犯用品の設置、夜間の建物周りの巡回強化、施錠の徹底などハード面、ソフト面で対応していった。

防災訓練では「特別養護老人ホーム博水の郷」と共に、地域住民も参加する大規模災害訓練に参加し地域交流を深めた。ホーム内での防災訓練では繰り返し実施することで対応を習得してきている。

・せたがや福祉区民学会で発表

第 8 回せたがや福祉区民学会で実践報告を行った。

『ひとり一人に向きあった実践』というテーマで、「ショートステイ中のトラブルへの対処が安定利用に繋がった事例」の発表である。職員一同で工夫し良い方向に導くことができた事例であるが、発表内容も職員会議で検討し作成した。

せたがや福祉区民学会は、障害者だけではなく高齢者や子どもなど地域福祉がテーマになっており～世代を超えてつながろう-せたがや福祉の実践～という中での発表は、私たち職員にとっても大変勉強になるものだった。地域に発信することも私たちの役割と考え、6 年間の実践を形にすることができた。

〔入居者の状況〕

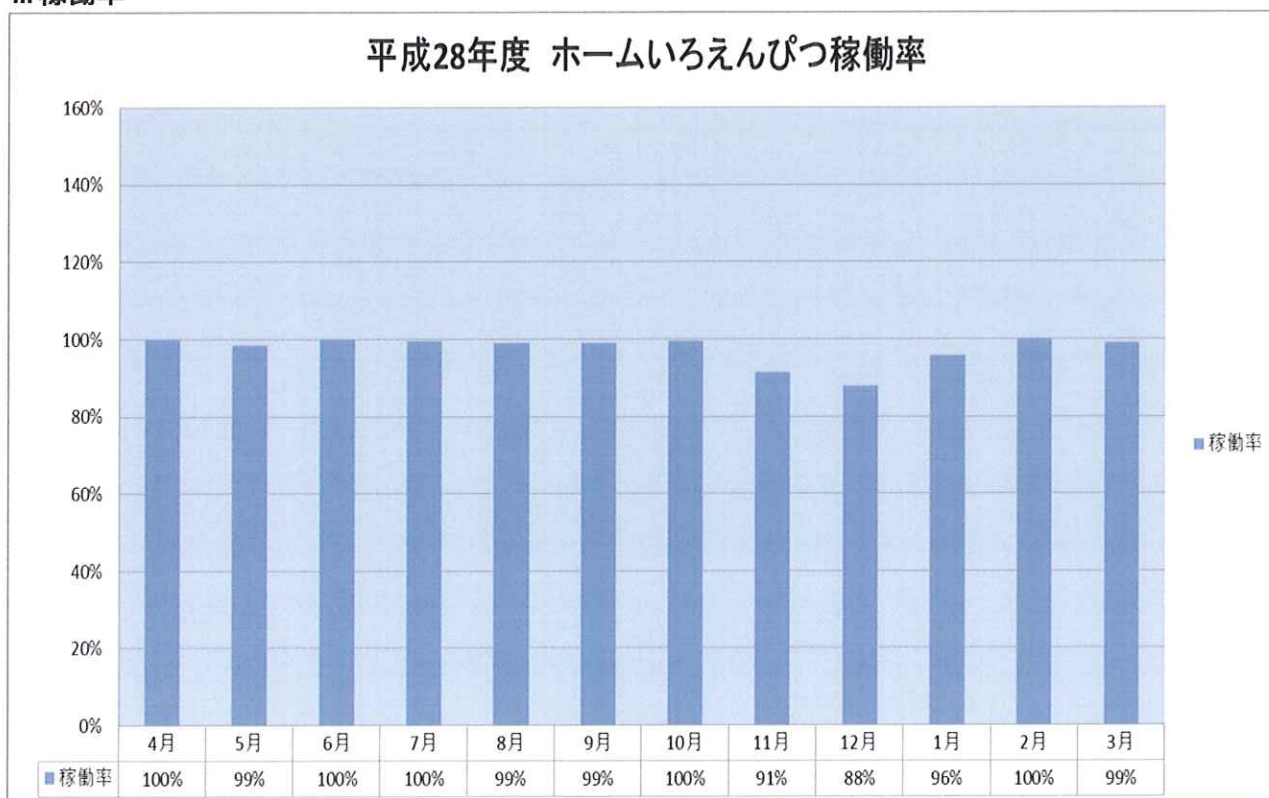
i 障害支援区分

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
	1 名	2 名	1 名	4 名		7 名

ii 入居者年齢表

年齢	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～65
人数	1				1	3	2

iii 稼働率



※100%未满是土日祝日、自宅へ帰られる利用者の状況がある

〔個別支援計画・面談実施状況〕

実施日	場所	主な確認内容	参加者
6月 6日	ホームいろえんぴつ	就労先との連携・金銭管理など	5名
6月 20日	ホームいろえんぴつ	健康管理・金銭管理など	7名
6月 21日	ホームいろえんぴつ	精神面の支援・金銭管理など	6名
6月 21日	ホームいろえんぴつ	視覚障害への支援・対人関係など	6名
6月 30日	法人会議室	日中活動との連携・余暇支援など	5名
7月 4日	法人会議室	精神面の支援・金銭管理など	6名
7月 5日	ホームいろえんぴつ	健康管理・金銭管理など	6名

〔利用者自治会〕

実施日	主な内容	参加利用者
4月 24日	新年度担当職員発表・ ショートステイ利用者との付き合い方など	7名
5月 29日	食堂の座席について・薬の話・ ゴキブリ対策についてなど	7名
7月 3日	特別扱いとは・食事希望についてなど	7名
7月 17日	薬の飲み方について・担当職員についてなど	5名
9月 4日	行事についてなど	7名
10月 1日	博水文化祭について・防犯訓練の合言葉確認・ ショートステイ利用者についてお願いなど	7名
11月 5日	感染症について・うがい、手洗い声かけなど	7名
12月 3日	食事の希望についてなど	7名
1月 2日	昨年度の振り返り・今年の抱負など	7名
3月 5日	利用者のこだわりについてなど	7名
3月 25日	お疲れさま会	7名

② 短期入所（ショートステイ）

グループホームと同時にスタートした短期入所（ショートステイ）も6年目に入り、利用申し込みが増加している。リピーターが多いが、新規体験利用を空室に割りあてるよう努め稼働を上げることができている。また安心・安全に利用できるように退所時には「ご利用報告書」を一人ひとりに配布し情報共有に努めている。またインフルエンザなどの感染症対策としてホーム内の消毒は徹底して行った。さらに空室があれば適宜利用のお誘いし有効的な活用をしていただいた。また一人一人の個性や相性への配慮が必要であり、それを見極めながら利用を計画し楽しく過ごしていただく工夫を行い、仲間意識を作ることもできている。

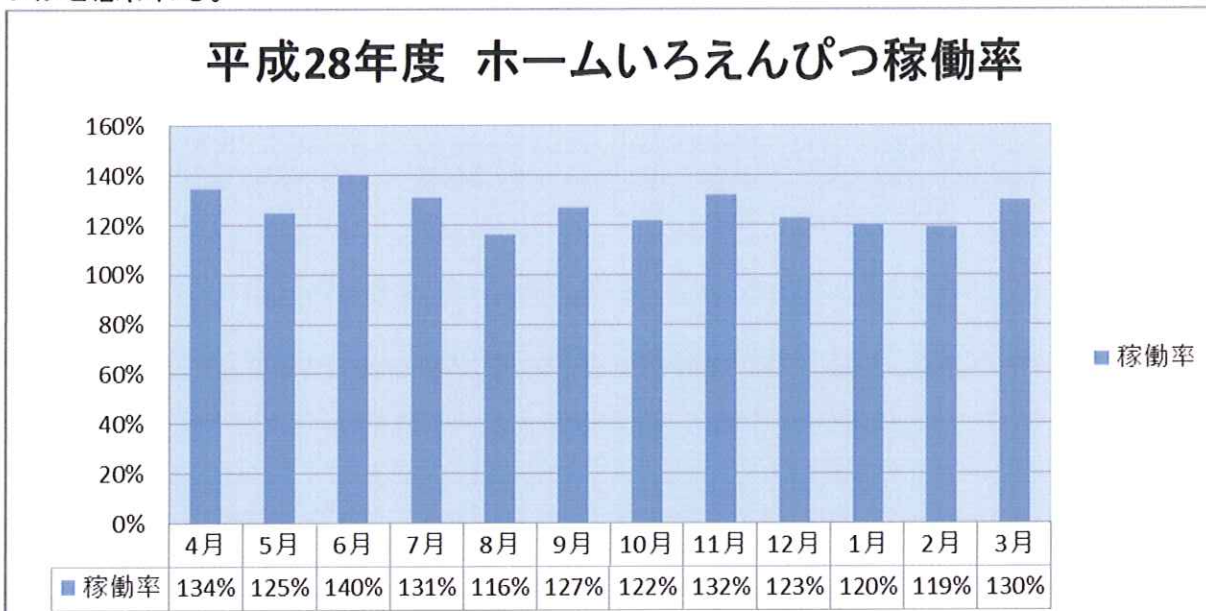
最近では、保護者の健康上の理由で自宅生活が困難な方が定期的に利用するというレスパイトの意味合いが強くなっているケースが増えてきている。次年度もますます「ショートステイ」の役割の重要性をしっかりと受け止め担っていかなくてはならない。

i ショートステイ区分別利用状況

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
4月	—	8	8	10	3	1	30
5月	—	6	8	7	1	1	23
6月	—	6	6	11	4	1	28
7月	—	9	5	10	4	1	29
8月	—	6	6	11	4	1	28
9月	—	7	7	10	3	2	29
10月	—	6	9	10	4	1	30
11月	—	9	4	13	4	1	31
12月	—	5	6	11	3	1	26
1月	—	5	4	11	4	1	25
2月	—	6	2	9	4	1	22
3月	—	7	4	11	4	1	27
計	—	80	69	124	42	13	328

ii ショートステイ稼働率

平成28年度も平均120%を超える稼働率であった。入院や家族の都合でのキャンセルが多い月もあったが、保護者とのコミュニケーションをこまめに行い、あらかじめ利用希望曜日や利用目的の把握に努め空室利用を促進した。またショートステイ利用者におもてなし精神で気持ちよく利用してもらえるよう、職員は細かい配慮を行った。これが年間を通じ良い稼働率を出しているのではないかとと思われる。



③ 日中ショートステイ

世田谷区独自事業日中ショートステイは、ホームページを見た方からの問い合わせを受け、契約・利用という段階を経ている。利用は学校の休業日に集中し、夏休み、春休みに受け入れを行った。利用者の中には身体手帳所持者も含まれていたため、安全に配慮し、食事提供時には刻み食など個別対応にも配慮した。今後も様々なケースに対応できるよう、障害特性や医療に関する内部・外部研修を積み重ね、障害種別を超えて対応できるようにしていく。

利用日	時間	定員
月～金（祝祭日休み）	10：00～15：00	3名

(2) 会議

① 職員会議（法人本部・障害者支援局・管理者・世話人・支援員全員）

実施日		内 容
4月 4日	第1回	職員人事・BCP委員会の発足・帰宅困難者準備委員会・研修報告・各部署からの報告
5月 2日	第2回	都民フォーラム・ヒヤリハット・体調管理・各部署からの報告
6月 3日	第3回	職員倫理規定・利用者の事故への対応・障害者の権利・研修報告・各部署からの報告
7月 4日	第4回	熱中症対策・職員人事・計画相談・地域活動への参加・研修報告・各部署からの報告
8月 1日	第5回	相模原の障害者施設の事件について・挨拶運動・区民学会・熱中症対策・研修報告・各部署からの報告
9月 5日	第6回	BCP委員会・熱中症対策・第三者評価・防犯訓練・各部署からの報告
10月3日	第7回	博水文化祭・防犯訓練・区民学会・災害伝言ダイヤル・各部署からの報告
11月7日	第8回	感染症対策・ストレスチェック・職員人事・各部署からの報告
12月5日	第9回	区民学会発表・感染症対策・防犯訓練・研修報告・各部署からの報告
1月 6日	第10回	本年の目標と抱負・感染症対策・研修報告・各部署からの報告
2月 6日	第11回	相模原事件のその後・感染症対策・内部監査・研修報告・各部署からの報告
3月 6日	第12回	大規模災害訓練・感染症対策・移動支援事業所の開設・各部署からの報告

② 利用者支援会議<入居者ケース会議>

※管理者・世話人・支援員の全員が出席し利用者の個別支援に関わる共通認識を図る

実施日		参加職員数	内 容
4月 4日	第1回	8名	新年度からの業務・夜間体制加算・個別支援
5月 2日	第2回	7名	利用者間のトラブルへの対応・服薬管理・個別支援
6月 3日	第3回	6名	ヒヤリハットの検証・個別支援
7月 4日	第4回	7名	ヒヤリハットの検証・個別支援
8月 1日	第5回	6名	衛生管理・行事の見直し・セキュリティ対策・個別支援
9月 5日	第6回	6名	ヒヤリハットの検証・相模原障害者施設の事件について思うこと・個別支援
10月3日	第7回	6名	栄養管理・室温管理・個別支援
11月7日	第8回	6名	ヒヤリハットの検証・感染症対策・個別支援
12月5日	第9回	6名	内部研修「感染症」・個別支援
1月6日	第10回	6名	入居者の生活習慣・個別支援
2月6日	第11回	6名	入居者の生活習慣・個別支援
3月6日	第12回	7名	SS利用者への対応・個別支援

③ 各業務担当者会議

<行事委員会>

※余暇時間の充実を図り、季節感を重視した取り組みを通じてホームの生活の質の向上を目指す

実施日		参加職員数	内容
4月 3日	第1回	2名	誕生会（ケーキについて）
5月20日	第2回	2名	食事会（メニューについて）
6月23日	第3回	2名	七夕会（笹や短冊の準備について）
7月25日	第4回	2名	花火大会（当日の準備について）
8月 1日	第5回	6名	今後の行事実施について
12月 5日	第6回	2名	入浴イベント（掲示物、入浴剤について）
12月10日	第7回	2名	クリスマス（当日の食事について）
2月20日	第8回	2名	ひなまつり（当日の食事について）
3月20日	第9回	3名	お疲れさま会（当日の内容について）

<衛生委員会>

※ホーム内の衛生管理、健康管理に努めながら、利用者が健康に安心してホームで生活していけるよう支援していく

実施日		参加職員数	内容
5月17日	第1回	2名	新衛生委員へのレクチャー
7月29日	第2回	2名	夏場の食中毒の防止
9月12日	第3回	2名	消毒用品の変更
2月20日	第4回	2名	感染症対策、ごみの分別

<防災委員会>

※様々な災害への対策を検討し、防災訓練等を通じて利用者の身体・生命の安全を図る

実施日		参加職員数	内容
4月19日	第1回	2名	今年度の防災訓練
5月12日	第2回	2名	二子玉川帰宅困難者対策会議
6月27日	第3回	2名	成城消防署・実務講習訓練
7月11日	第4回	2名	職員減に伴う今後の訓練計画
8月1日	第5回	6名	相模原事件による対策
9月1日	第6回	6名	刺叉使用訓練
10月4日	第7回	2名	職員向け防犯訓練
11月3日	第8回	2名	成城警察署・防犯訓練
12月5日	第9回	2名	防災備蓄品
1月6日	第10回	2名	来年度の防災備蓄品更新計画
2月14日	第11回	2名	3月・法人大規模災害
3月7日	第12回	2名	防火防災管理者の引き継ぎ

<食事委員会>

※毎日の食事の中で栄養バランスと、視覚的に彩りを考え「食の楽しさ」を提供

実施日		参加職員数	内容
4月15日	第1回	2名	調理器具の見直し、清掃
5月27日	第2回	2名	食材の注文・衛生（手洗い消毒）
6月14日	第3回	2名	献立の見直し
7月15日	第4回	2名	食事注文表の変更
8月10日	第5回	2名	献立見直しの変更
9月18日	第6回	2名	食数表の見直し
10月18日	第7回	2名	食材の活用、献立表の表記
11月23日	第8回	2名	衛生の周知、食材の活用
12月19日	第9回	2名	イベントメニューの計画
1月14日	第10回	2名	デザートについて・お楽しみ食事会
2月16日	第11回	2名	献立の見直し・食事会の反省
3月 8日	第12回	2名	食数依頼の流れ再確認

(3) 行事

※「利用者が作り上げていく行事」をテーマに、準備や進行など利用者が参加できるように工夫をして、様々な場面で積極的に関わりながら行事を積極的に楽しむ

実施日	行事名	参加者数
4月16日	4月誕生会	9名
5月5日	カラオケ会	9名
6月11日	お楽しみイベント（食事会）	7名
7月2日	七夕会	10名
7月9日	7月誕生会	9名
8月20日	多摩川花火大会	8名
10月23日	博水の郷文化祭	8名
12月6日	いろえんぴつ温泉	8名
1月1日	初詣・書初め	7名

(4) 防災訓練

※毎月末休日、避難訓練を中心に座学も実施する

実施日	内容	参加者数
4月29日	総合訓練（地震想定）	5名
5月29日	避難訓練（火災想定）	7名
7月3日	避難訓練（火災想定）	8名
7月31日	防犯訓練（不審者対応訓練）	6名
9月4日	防犯訓練（不審者対応訓練）	6名
9月25日	防犯訓練（不審者対応訓練）	6名
10月30日	防犯訓練（不審者対応訓練）	6名
11月7日	防犯訓練（不審者対応・職員向け訓練）	6名
11月20日	防犯訓練（不審者対応訓練）	7名
12月18日	避難訓練（火災想定）	5名
1月28日	総合訓練（非常呼び出しボタン使用訓練）	5名
2月25日	総合訓練（不審者対応訓練・新入職員訓練）	7名
3月4日	総合訓練（法人・大規模災害訓練）	7名

(5) 職員研修

※法人内部研修・障害局研修・いろえんぴつ内部研修・外部研修を計画、実施し、研修や支援サービスの質の向上を図るために、今後の施設の課題解決に向けて可能な限り参加し研修後、支援会議を通じて全職員に共有化を図る

日時	研修名	主催	人数
4月4日	業務連携の大切さ	法人障害者支援局	6名
5月31日	「支援を可視化する」	東京都通所活動施設職員研修会	1名
6月22日～ 6月23日	「相談支援初任者研修」	東京都身障障害福祉センター	1名
7月29日	「防犯等安全管理研修」	法人障害者支援局	5名
11月7日	「防犯実務研修」	成城消防署	8名
11月26日	事例発表 「ひとり一人に向きあった実践」	せたがや福祉区民学会	4名
12月5日	「感染症研修」	法人障害者支援局	6名
1月11日	「ストレス対策」	障害支援局	3名
2月20日	「評価者研修」	法人本部	1名

2. 相談支援課（相談支援センター フォルテ）

相談支援センター フォルテ
相談支援専門員 高野 陽子

(1) 概括

1、重点目標への取り組み

- ・「相談支援専門員の専門性の向上」については、地域の事業者連絡会の参加や民間の研修の受講、他職種との連携による情報収集を行った。
- ・「書式と書類の整備」については、記録関係の書式の整備と受給者証情報を記載した名簿を作成した。名簿については、計画作成についての行政の方針変更に伴い記載内容を修正・変更していった。業務を進めていくうえで、新たに必要となる書式も発生しているため、来年度整備していきたい。
- ・「当法人内サービス利用者以外の受け入れ」については、依頼のあった方から進め地域にニーズに応えた。

2、計画相談マニュアルの活用

9月に実務ハンドブックとなる『世田谷区の障害相談支援のための計画相談マニュアルVer.1』が発行された。それ以降、相談支援の支給期限内であっても何らかのサービス支給が切れる際には計画作成をするように行政の方針が変わり順次対応し、サービスが切れ目なく利用できるように作成できた。

3、サービス利用の促進

他事業所との連携を図り、短期入所や移動支援、居宅介護（ホームヘルプ）、施設入所など利用者の状況に応じたサービス利用の幅を広げることができた。

また、障害福祉サービス関係者だけでなく、あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所とも連携し、利用者本人だけではなく家族も含めた支援に取り組むことができた。

相談支援専門員の報酬はサービス利用支援費と継続サービス利用支援費で、原則、計画作成時とモニタリング月のみの請求だが、現実にはそれ以外の月の通院同行・施設見学・サービス提供事業者との調整などの業務も多かった。

(2) 実績

① 計画作成

相談支援実施対象者数(契約済み) 64名

月	新規計画作成 (更新を含む)	モニタリング
4	0	12
5	1	8
6	4	8
7	4	3
8	4	7
9	2	37
10	3	11
11	6	8
12	5	4
1	2	4
2	2	4
3	40	9
合計	73	115

② 地域連携

・玉川地域相談支援事業所連絡会

実施月	内容
6	各事業所からの状況報告、区からの情報提供、 計画相談マニュアルについての意見交換
12	各事業所からの状況報告、区からの情報提供、

③ 職員研修

実施月	研修名	主催	参加者
8	相談支援専門員フォローアップ 研修	相談支援専門員フ ォローアップ研修 企画委員会	相談支援専門員
11	スキルアップ2016	アソシア	相談支援専門員
12	障害者相談支援人材育成研修 テーマ別研修 障害者差別解消法を踏まえた支 援『支援における合理的配慮を学 ぶ～日々の支援を振り返る』	基幹相談支援セン ター	相談支援専門員
	ストレス対策について	玉川福祉作業所	相談支援専門員